



● 自然再生と地域産業の連携をとりあえずやっというところから考えている。自然再生と産業はどこかで接するべきで、自然再生と産業が対立するような紋切り型の見方はもう越えたい。お互いに仲良くなって、どちらにもプラスになる道を探す手始めに、ガイドマップ作りを始めたい。

● 自然再生は本来地域のためのものでなければならないが、実際には産業と結びついて好循環をする形になっていない。その部分を小委員会の取り組みの一環として始めてはと思っている。鶴居村では滞在型の観光を作れないかと考えている。我々は湿原を普通のツアーでは見られないような切り口で見てもったり、湿原を使った大人の社会見学等で滞在型のプログラムが作れるのではと考えている。釧路湿原流域にはそういうこともできると紹介するツールが少ないので、それを一緒に作ることで産業との連携を目指してはどうかと考えている。

● 我々と地域の住民の双方にとってプラスとなるような自然再生を目指しての活動をしていきたい。行政の担当者の方からご意見を伺いたい。

● 鶴居村の基幹産業は酪農だが、観光にも力を入れており、観光協会も独立して事業を始めている。中期的に小グループの旅行者を呼び込むコンテンツは重要だと考えており、自然再生と連携できることは、村にとって理想的で重要な事と考えている。今回の取り組みは是非進めていただきたいと考えている。

● 鶴居村はモデルを作ることからのスタートなので、十分に完成した形ができるかは分からないが、この取り組みをやりたいと思っている。

● 自然再生協議会を立ち上げた時に、当時の協議会長辻井さんが、いわゆる再生ブランドが地域に根付かないとこの事業は続かないという話をされていたのを思い出した。ここ10年間で湿原に関するブランドはあまり見たことがない。やはり自然再生と産業が結びつくのがとても重要な事だと思う。

● 従来から体験型エコツーリズムの商品開発を行っているが、苦戦している。現状では釧路湿原よりも屈斜路湖、摩周湖の保全に資源を投入しているのが実情である。今回釧路湿原という新しい切り口には期待するが、屈斜路湖、摩周湖で営業している事業者をどこまで巻き込んでいけるかは疑問である。弟子屈は釧路川の源流の町ではあるが、釧路湿原中心部に接していない町であることに配慮や理解をいただいた上で事業を進めて頂きたい。

● ガイドマップのようなものは釧路市でもラムサールレシビとして作成したことがあるがうまくいかなかった。色々な業界が連携して事業を始めても、単発的なもので終わってしまうと続かないので、それを支える体制を組みつつ、持続させていく必要があると思う。

● 持続可能な形のものきつかけを作らなければいけない責任はあるが、今はまず動き出す必要があると思う。他の方にも意見を伺いたい。

● ガイドマップの作成には賛成だが、作った途端に陳腐化するというのが過去にあった。ガイドマップとリンクするHPで逐次情報を更新する必要があると思う。TwitterやFacebookで観光の情報発信を手掛けているところがあるので、小委員会のメンバーがこのような手段で情報発信するというのも一つの方法ではないかと思う。

● Facebookなどが大きな力を発揮する場面もあるので、それらを避けないで上手に繋げていければと思う。マップなどの印刷物は作ってしまうと安心してしまいがちなので、今頂いたご意見も踏まえて対処していければと思う。以上、鶴居村からガイドマップの作成に取り組む事でよろしいか。(一同了承)

## その他について

(再生普及小委員会の予定案を説明) 次回は2012年5月の予定だが、ガイドマップについて協議事項があれば、小委員会をまた開催したい。その際は事前に連絡する。

## 第18回 再生普及小委員会 出席者名簿

(敬称略、五十音順)

### 個人[4名]

白谷 和明(平和システム研究所 調査研究員)、高橋 忠一、松本 文雄、神戸 忠勝

### オブザーバー[1団体]

釧路商工会議所 (元氏 克巳)

### 団体[11団体]

釧路国際ウエットランドセンター (事務局長/菊地 義勝)	さっぽろ自然調査館 (代表/渡辺 修)
釧路自然保護協会 (会長/神田 房行)	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 (渡會 敏明)
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 (代表幹事/鈴木 久枝)	特定非営利活動法人 くしろ・わっと (成ヶ澤 茂)
釧路湿原国立公園連絡協議会 (事務局長/菊地 義勝)	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村 (理事/佐藤 吉人)
こどもエコクラブくしろ (近藤 一燈美)	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ (井上 雅子)
財団法人北海道環境財団 (事務局次長/久保田 学)	

### 関係行政機関[7機関]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 (治水課 上席治水専門官/花巻 雅人)	釧路市 (環境保全課 湿地保全主幹/菊地 義勝)
環境省 釧路自然環境事務所 (所長/野口 明史)	弟子屈町 (環境室長/館田 康)
林野庁 北海道森林管理局 (釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 所長/宮本 元宗)	鶴居村 (産業課 商工観光係長/佐藤 大輔)
北海道教育庁 釧路教育局 (社会教育指導班 主査/会田 大祐)	

### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
[http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro\\_wetland/index.html](http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html)

### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

## 釧路湿原自然再生協議会運営事務局

[TEL]0154-23-1353 [FAX]0154-24-6839



## 2011年12月6日(火) 「第18回 再生普及小委員会」が 釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室で開催されました。

### 開催概要

「第18回再生普及小委員会」が平成23年12月6日(火)に、釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室で開催されました。小委員会には、21名(個人4名、団体11団体、オブザーバー1団体、関係行政機関7機関)が出席しました。今回は、行動計画ワーキンググループと環境教育ワーキンググループの経過報告の他、5年目の施策の点検および自然再生と地域産業の連携について事務局より説明が行われ、活発な意見の交換が行われました。






このようなことが話し合われました。

委員長 委員 事務局

## 再生普及行動計画WG経過報告について

再生普及小委員会下に再生普及行動計画WGがあり、釧路湿原の保全と自然再生事業の普及啓発、市民参加の取り組みを行っている。

<p><b>1 WGの開催と行動計画の進行管理・活動支援</b></p> <p>ワンダグリダ登録証の発行。ワンダグリダ応募者限定のカヌーツアーの実施。ワンダグリダ応募のメリットを今後も増やしていく。</p> 	<p><b>2 情報発信普及活動の拡充。</b></p> <p>第2期再生普及行動計画概要（英語版）の作成（1000部）。ワンダグリダPR用の名刺シールの作成。</p>	<p><b>3 対象別情報発信</b></p> <p>今年度も様々な形で釧路湿原・自然再生事業の普及啓発のためのイベントを実施。釧路市こども遊学館での「大好き釧路湿原イベント」で、航空写真を用いた双六や、ヨシを使ったコースター作りを開催。釧路空港出発ロビーでの航空写真やパネル展示。イオン釧路店で航空写真やパネル展示。鶴居村のふるさと祭り参加など。</p>	<p><b>4 自然再生の今を伝える情報発信</b></p> <p>去年、森林再生事業の概要版WEBページを作成した。今年度、茅沼旧川復元のWEBページについて12月完成を目指して作業中。</p>
---	--	--	--

**5 自然再生の参加の機会作り**

一般市民などが自然再生事業に参加してもらう機会づくりとして現場見学会を2回実施。再生普及小が主催で他小委員会が協力の形をとった。達古武森林再生事業の見学会は、キャンプ場の利用者向けの自然散策。幌呂湿原再生事業の見学会は地元の方のハンノキ調査モニタリングなどを行い、どちらも好評だった。



<p><b>6 フィールドワークショップの開催と実施</b></p> <p>ワンダグリダ応募者・再生普及小・WGのメンバーで夏のキラコタン岬や青沼を見学した。今回は2月に冬のコッタロ湿原の見学を計画している。</p>	<p><b>7 知名度調査アンケートの結果</b></p> <p>全体（253件）の集計では、自然再生事業が約40%、協議会や全体構想が10～20%の知名度であった。流域の5市町村に対象者を絞った場合は、自然再生事業の知名度は78%と年々高くなっており、これまでの活動の成果が現れているように思う。</p>	<p><b>8 ワンダグリダプロジェクト2011中間報告</b></p> <p>今年度は47団体75取組が行われている。</p>	<p><b>10 第21回再生普及行動計画WGでの議論の概要</b></p> <p>10月26日のWG会議で、自然再生事業への市民参加について検討した。幌呂、久著呂、雷別の各自然再生事業について、どのような市民参加が考えられるかワークショップ形式で議論をした。今後の市民参加を促進するために、各小委員会と連携して取り組みができるよう自然再生協議会などの場においても提案していきたい。</p>
--	---	--	---

- 今後、地域の住民が自然再生に参加し行動すること、自然再生を地域の産業と結び付けていくことを目標として、自然再生協議会の場で各小委員会に向けて提案したい。住民の自然再生への参加の具体案について意見を伺いたい。
- 住民の参加は大変良いことだと思う。また、参加することは可能だと思う。
- 昨年から自然再生と連携したプロジェクトを達古武で行っているが、自然再生は長期的な取り組みになるので、長く係われる仕組みがあると良いと思う。
- 雷別で年に2、3回イベントを行っているが、どうしてもメンバーが固定になるので、多くの人に参加して取り組んでもらえるよう考えたい。
- 各小委員会に対して、持続的にモニタリングができ、自然再生の意義を感じられるようなプログラムを考えていただきたい、ということを次の協議会で提案したい。

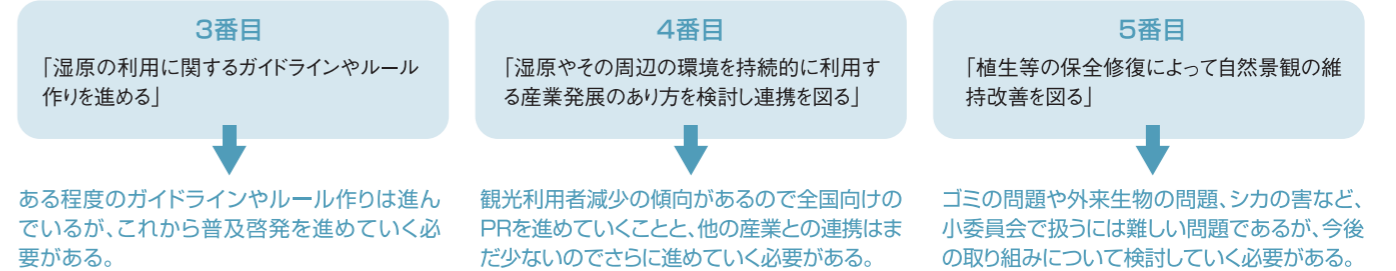
## 環境教育WG経過報告について

<p><b>1 情報の提供と収集</b></p> <p>数年前に冊子「きづくわかるまぶ釧路湿原」を作成し、環境教育に取り組んでいる学校の取り組みの事例や協力団体を紹介しており現在は情報をHP上で更新している。その後、指導要領の変更に伴い各学校の取り組み内容がどう変化しているかを確認するために、掲載学校にアンケートを送付したところである。</p>	<p><b>2 教員研修の実施</b></p> <p>環境教育推進のため、教員向けの研修を2回行った。教科学習と釧路湿原の関連を題材に内容を検討した。1回目はカヌーで川を下り、流水による土砂の堆積などの環境の変化を体感してもらった。2回目は釧路教育センターとの共催で、先史時代の釧路湿原の姿、達古武の自然再生事業についての講義、達古武湖でヒシの観察を行った。来年度は2回とも教育センターとの共催で行えるよう検討していきたい。</p>	<p><b>3 湿原を題材とした学習と教科学習との連携</b></p> <p>教科学習においても釧路湿原を題材として取り上げてもらいたい。教科書から離れた学習は難しいので、第7回WGで、教科書とどう関連させて釧路湿原を取り上げることができるか、意見を出してもらった。第8回WGでは、出た意見について具体的な検討を行った。現在は、事務局とWGのメンバーで資料作成のための情報収集を行っている。今後、収集した情報を集約し、次回のWGを経て取りまとめたものから順次学校に配布していきたい。</p>
---	--	---

REGENERATION SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER

## 5年目の施策の点検について

点検作業の流れや、釧路湿原自然再生全体構想のうち「持続的な利用と環境教育の推進」の達成すべき5つの目標についての点検結果の案を確認。



- 目標の点検にあたり、数値化できるものは数値化することを目標とした。5番目の部分には外来生物とシカについて大きな問題であるので加えた。目標通り進んでいないものは進んでいないことを明示した上で、今後どうするかを考えて明記することを心掛けようと思う。4番目については次の議題で取り上げて議論したい。これらの点検結果についてご意見を伺いたい。
- 数値化したことは評価できるが、肯定的な評価と一緒に記述することでわかりにくくなっている部分があるので、点検結果、評価、対策の3つを分けて記載することが必要と思う。
- もっと分かりやすい表現を検討したい。
- 5番目について、景観の問題がこの小委員会で扱われるようになった経緯上、本来的には問題を景観に絞るべきで、外来種による生態系への影響などは別の小委員会で扱う方が良いと思う。
- 各小委員会から施策点検結果が出てくるだろうが、その小委員会では扱えない問題が出たら、それを他の小委員会に渡して検討してもらいたい。外來種の問題は大きな問題だが、具体的にどこかの小委員会で検討できるか。
- 既存の小委員会はテーマがはっきりしているので難しいと思う。新しくテーマとして外來種と設定するのは難しいので、従来のテーマの問題点のひとつとして取り上げていく形になるのではと思う。
- どの小委員会で扱うか分からないものは、とりあえず再生普及で、という形もある気がする。そういう問題に対してはこちらで検討した上で、渡せる委員会があればバトンタッチすることも考えたい。また、現在協議会に対して71万円程度の寄付金があるので、この寄付金の使い道についても協議会で意見を述べたいがよろしいか。(一同了承) 今日意見をふまえ、文章をまとめて次回の協議会で提出したい。(一同了承)

## 自然再生と地域産業の連携について

全体構想の基本原則に「地域産業の維持活性化と自然再生の両立を図る」があり、再生普及行動計画にも「地域と関わり人をつなぐ」という記述があるが、自然再生と地域産業の連携がまだ図られていない現状である。自然再生と地域産業の連携について具体的な案を提示するので、ご意見を頂きたい。連携の具体的な方法はいくつか想定されるが、まずは現時点でできることから始めていく必要がある。まずは観光業やそれに近い農業・林業・アグリツーリズム等を中心に検討していけると思う。また、滞在型のガイドマップを作りたいと考えている。ガイドマップには宿泊・飲食などの観光業だけでなく、可能な限り農業や林業などの他の産業も入れていきたい。

各市町村に数日滞在しながら体験してもらおうプログラムを設定し、体験を通して地域を知ってもらいたい。マップに掲載する飲食店等は、湿原再生への取り組み等を評価する基準を設け、選定する必要があると思う。流域の5市町村のマップをそれぞれ作りたい。来年度にモデルケースとして鶴居村を作り、26年までに5市町村分を作りたい。実際の進め方としては、各市町村の担当者や観光協会、各産業の方との連携を考えている。協議会の寄付金の有効利用も考えていきたい。今後さらに連携を進めるためには各産業との意見交換を活発にすることが重要である。

REGENERATION SPREAD  
SUB COMMITTEE  
NEWS LETTER